

3年道德通信 第12号



第12回『希望のビザ』

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツから逃れようとするユダヤの人々にビザを発給し、数千人の命を救ったリトアニア領事の杉原千畝さんの体験から「人としての良心とは何か」を考えました。

激動する時代の中にありながら、自国の平和だけでなく、他の国の人々の平和や幸福に貢献しようとした杉原千畝さんから多くのことを学びました。



みんなの意見

「杉原さん」の行動から思ったことは何ですか？

- ビザを出すなと言われても、自分の意思でビザを書き始め、汽車の出発ギリギリまで書き続けたことで、結果的にたくさんの人を救って幸せにすることができたので、すごいと思いました。
- 正義を貫いたのはすばらしいと思った。
- 決められたルールを破ることが、正義になるところがあることを知った。
- 規則を破ってしまったけれど、杉原さんがビザを書き続けたことは、とてもすごいことだと思います。そして人はこんなに素晴らしいのかと思いました。同じ人間なのに差別する人に、わたしは絶対になりたくないです。
- 国からアカンといわれても、自分の良心を信じて最後までユダヤの人々のためにビザを発行したことは本当に勇気があると思うし、ユダヤの人々にとって忘れられない恩だと思います。私たちは大きなことはできないけれど、小さいことから少しずつ人のためにできることをしたいと思いました。



杉原さんがユダヤの人々に発行したビザ。

**世界の平和と人類の幸福に貢献
することについて、考えよう。**